

東京神学大学は、神学部・神学科の単科大学です。その意味で東京神学大学は、現代の社会に主イエス・キリストの福音を伝えるためひたすら伝道者・牧師を養成することにかけた大学です。そのために神学教育と研究を集中的に行っています。

東日本大震災では多くの人命を失い、甚大な数の方々が言いようもない悲惨な経験をいたしました。心からお見舞い申し上げます。被災地の方々とその地に立つ教会のためにも祈ります。

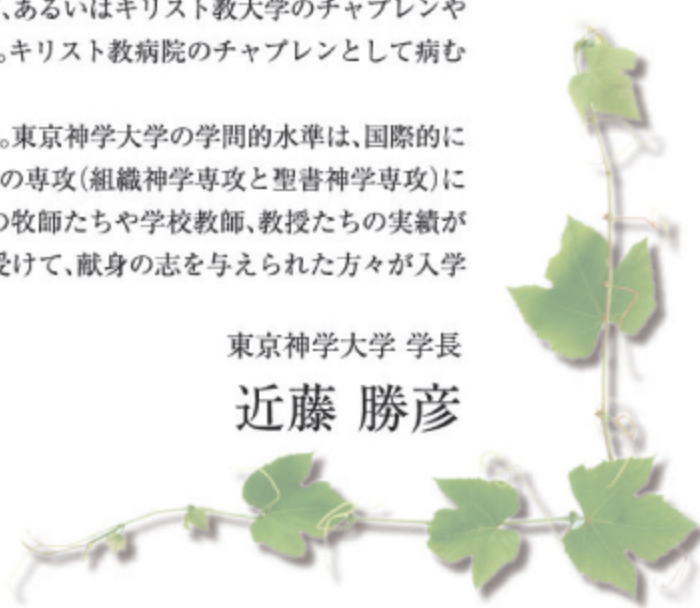
いま、私たち誰もが、心の底で真実の救いや支えを必要としています。人生を生きる真の力、そして希望はどこから来るのでしょうか。人と人とのつながりを支えてくれるのは何でしょうか。世界はどこに向かって進むのでしょうか。そして、その救いはあるのでしょうか。これらの問いはみな「真の福音」を求め問いではないかと思えます。こうした問いに答えて、福音を生き生きと語り伝える伝道者がいなければなりません。その働きのために、皆さんの献身を必要としています。

東京神学大学の卒業生は、全国の諸教会に牧師として遣わされ、それぞれの地域社会で福音を伝えています。キリスト教学校の聖書科教師として、あるいはキリスト教大学のチャプレンや教授として青年たちを指導している人たちもいます。キリスト教病院のチャプレンとして病む人を支えている人もいます。

こうした奉仕のためには学問的な訓練が必要です。東京神学大学の学問的水準は、国際的にどこに出してもひけをとるものではありません。二つの専攻(組織神学専攻と聖書神学専攻)において博士の学位を出していますが、さらに卒業生の牧師たちや学校教師、教授たちの実績がこの大学の水準の高さをよく示しています。洗礼を受けて、献身の志を与えられた方々が入学してこられるのをお待ちしております。

東京神学大学 学長

近藤 勝彦



日本伝道の歩みと東京神学大学

教授 棚村 重行(歴史神学)

「日本の教会と神学校はなぜ合同したがるのですか？」これは数年前本学を訪問した韓国の一神学大学の学生たちが、本学に合流した多様な旧教派神学校の系統図を見て発した驚きの問いです。一つの答えは様々な教会合同運動(エキュメニズム)を主動機とし、教派を建設する動機も絡み織りなすドラマ——これが歴史的に見た日本伝道の脚本といえましょう。

三段跳び式に言えば、ホップ段階の明治初期、信仰復興の福音を伝えた日本基督公会という19世紀の合同運動が、教派形成と対抗して移植されました。宣教師ブラウンの合同神学塾は本学の遠く遙かなる一源流です。

ステップ段階は、20世紀エキュメニズムの日本基督教連盟をエンジンとした教派の協力合同運動の時期です。この頃二つの神学教育機関、東京神学社と明治学院神学部が合同し、日本神学校が誕生しました(1930年)。

このステップの上に、第二次世界大戦時の国家による宗教団体法の超突風も加わり、当時のプロテスタント30余派は多教派間合同教会、日本基督教団へジャンプしました(1941年)。この教団の教職養成校、日本基督教神学専門学校(1944年)を経て、戦後の1949年に新制東京神学大学が誕生したわけです。

以来、聖書と歴史的な信仰告白の資産を継承し、「教団信仰告白」を規準とした、健全な福音の伝道と諸教会に開かれた神学教育、教団形成の更なるジャンプに努める神学大学——これが本学の基本姿勢です。



かつて使われていたパンフレット